

「NHKの報道」

2014年07月20日

新聞に載っていた週刊誌の「クローズアップ現代 国谷キャスターは涙した 安倍官邸がNHKを土下座させた一部始終」という見出し広告を見て、読んでみたいと思ったが、忘れてしまっていた。本屋に行った時、思い出して探したが、売り切れていた。息子に頼んだところ、手に入れてくれた。週刊誌のこの種の報道はかなり信頼できると聞いている。

「クローズアップ現代」のキャスターの国谷裕子氏が、菅義偉官房長官を招き「日朝協議」と「集団的自衛権の行使容認」について詳しく聞く番組があった。菅氏は数人の秘書官を引き連れて、貴賓室に入った。NHKの靱井勝人会長は「今日は、よろしく願います」と頭を下げた。この日は、周りに緊張感が漂っていたという。

7分ほどの「日朝協議」の話がなされ、「集団的自衛権」の話題になった。国谷氏は「他国の戦争に巻き込まれるのでは」「憲法解釈を簡単に変えていいのか」と物怖じせず突っ込んだ質問をした。更に、菅氏の発言をささげって「しかしですね」「本当にそうでしょうか」と食い下がった。番組終了後、待機していた秘書官が「いったいどうなっているんだ」とクレームをつけた。官邸には、事前に質問事項を伝えていたが、国谷氏の質問は鋭すぎると受け取られた。数時間後、官邸側からNHK上層部に「現場のコントロールもできないのか」と猛抗議があった。靱井会長が土下座したかどうかは分からないが、上層部は右往左往した。国谷氏は居室に戻ると、人目をはばからず涙を流したという。彼女は視聴者の疑問を代弁したいと思い、率直に聞いたのであろうが、官邸サイドは、気に入らないという訳である。

この報道は、現在の政府とNHKの関係を如実に表しているのではないか。靱井氏は会長就任会見で「政府が『右』と言っているものを『左』と言うわけにはいかない」と政府の言いなりの報道をすると発言していた。NHKの政府追従の姿勢は、以前からであるが、最近は一層ひどく、とてもジャーナリズムを担っているとは言えない。

1976年、田中角栄元首相が保釈された時、NHKの小野吉郎元会長が真っ先に「目白御殿」に挨拶に行った。権力者に癒着した姿勢が批判され、さすがに、小野氏は辞任させられた。2000年、「女性国際戦犯法廷」が開かれた。女性に対する旧日本軍が組織的に行った強かん、性奴隷制、拷問、その他性暴力等の戦争犯罪を厳しく問う民間法廷であった。NHKは、この法廷を取りあげて放映した。ところが、法廷主催者の意図とは違い、大きく変更されたものになっていた。政府の強い圧力によって、改編されたからである。

池田恵理子、戸崎賢二、永田浩三の三氏が『NHKが危ない』を上梓し、安倍政権の政治介入人事の危機を訴えている。安倍首相は、百田尚樹氏と長谷川三千子氏らを経営委員に任命した。百田氏は「南京大虐殺はなかった」と歴史の歪曲を臆面もなく語っている。長谷川氏は「国民が天皇のために命を捧げるのが本来の国柄」と途方もない発言をしている。このような超右翼的な人々がNHKの経営陣であるから「推して知るべし」である。靱井氏、百田氏、長谷川氏の発言に反発して、辞任を要求し、受信料支払いの凍結を表明している人は5万人を超えると聞く。しかし、彼らを辞任に追い込めていない。権力者が吹かせる「風」を恐れては、真実を伝えるジャーナリズムの使命は果たせない。最近、風が「強風」になって、政府に批判的な人は発言する機会を与えられない状況になってい

る。